

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 ショパニストコンチェルト A 部門

●審査員 A

- ・ソリストと弦楽四重奏が見事に協奏している演奏と、どこまでいってもかみ合わない演奏と両極端に分かれていました。
- ・ソリストとして優位性を持つ時と、後ろにまわる時と、この 2 点の姿勢が明快だと、それぞれの演奏が生きてきます。後ろにまわってカルテットを立てるタイミングを見計らっておくとよいと思います。

●審査員 B

曲に対する想いや情熱がとても伝わってきましたので、音の響きのバランスや楽譜にある指示をよく見て、さらに磨かれると良いと思います。弦楽四重奏と共演するということはなかなかない機会かと思います。とても幸せそうにのびのびと演奏されている様子が印象的でした。

●審査員 C

- ・まずは音色を磨いてください。魅力的な音色が要求されます。
- ・細かいパッセージまで確実に弾けるようにしてください。
- ・ピアノが主役なので、オーケストラ（弦楽四重奏）をリードしていくくらいのエネルギーが必要です。

●審査員 D

各ピアニストがそれぞれ違う表情を持っており、弦楽四重奏とアンサンブルをされていたと思います。日々限られた時間で練習をされている愛好家の方および弦楽四重奏の方々に敬意を表したいと思います。

●審査員 E

ショパンの作品を演奏する際、その作品がどの時代に書かれたかをまず知りましょう。それぞれの時代によってショパンの様式と特徴が違います。大きく 3 つの時代に分けられます。前期は、ワルシャワ時代の作品、ブリランテ様式と呼ばれる華やかで軽やかな音色を必要とする作品が多くあります。中期はワルシャワを離れたあとの作品で、ショパンらしい独自のスタイルが完成されます。そして晩年の円熟期では、これまでの創作活動の総まとめ期というだけではなく、未来の印象派の音楽を予見するようなハーモニーなどが現れます。

それらを知った上で、その作品を演奏するには本当に何が必要か、楽譜に書かれた真実、ショパンの意図、音楽の意味は何かを考え、どのように演奏すれば実現できるかを根気よく探ってみましょう。

過去のコンクールのコメントでさまざまなポイントを言及してきました。今回も同じようなことを感じました。ペダルはまず楽譜をよく見て、ショパンのオリジナルの指示を理解しましょう。身体は力を入れず、肩から肘、手首もよく緩めておき、末端の指先はしっかり鍵盤にフィットするようにしましょう。いつも右手と左手のバランスを良く聞いて、メロディは良く響く深い音で、伴奏は控えめに柔らかく弾きましょう。アーティキュレーション（スラー、スタッカート、テヌート、長めのアクセント記号など）や、表情記号（ソステヌート、ソットヴォーツェなど）を良く見て、どのような表情とテクニックがふさわしいか考えましょう。テンポに関しては、特に指示がないのに急に遅くしたり急に速く弾いたりなどしないようにしましょう。強弱記号はただ強い、弱いだけでなく、その場所にふさわしいイメージを持って作りましょう。光と陰の陰影や二面性のコントラストなども工夫して、多様な表現ができるようにしましょう。

最後に指導者の皆様へ。この困難な時代に生徒さんが音楽に向き合うことはとても尊いことで、そのお手伝いをしてくださっていることに感謝します。教育とは、それぞれの生徒さんたちの持っているスキルと足りていないところを見極め、彼らに何が必要かを考えていくことだと思います。生徒さんを取り巻く環境も大きく変わってきているので、時代にあった指導を心がける必要があります。そして内面（メンタル）が一人ずつ違う生徒さんたちの才能を開花させるには、柔軟な対応と幅広い視点、そして教師自身の日々のレベルアップが必須となるかと思います。

●審査員 F

今回のコンクールで聴く機会があったピアニストたちへの私からのコメントや提案は、正直なところ以前私がこのコンクールで述べたコメントの内容と重なることが沢山あります。

真の芸術家は（敢えてピアニストではなく芸術家と呼びます）、ピアノを弾くのではなく芸術的想像力を駆使し指でストーリーを語ります。音は言葉であり、フレーズは文章であり、曲は全体の物語です。このように音楽を理解し伝えてこそ、聴く人の魂に届き、音楽のあらゆる感情や表現を伝えることが出来るのです。

以前のコンクールでのコメントの内容とも重なりますが、ペダルではなく指を駆使した「レガート・カンタービレ」、和声構造の認識、アーティキュレーション、正確なペダル、ショパンが重視した演奏の自然さ、聴衆の喝采を浴びることだけを目的とする人工的な「演出」

のない演奏、メトロノームの過度なプレッシャーに左右されない音楽の時間感覚と柔軟な語り（メトロノームの正確さは、ときに芸術的想像力を乱すことがあります）はショパンを弾く上で常に覚えておきたいことです。

コンクールに参加する目的は賞ではありません。コンクールは、意識的にレパートリーを増やすことに役立ち、具体的で期限付きの課題を与えてくれ、向上心や集中力へも影響をもたらします。コンクールは音楽家の成長にとって重要で前向きな要素となるのです。

最後にコンクールに参加された皆さん、そしてその先生方、親御さん、お子さんや生徒さんが芸術的な達成から多くの喜びを得られることを心から祈っています。